

**令和元年度第3回宮城県試験研究機関評価委員会  
(農業関係試験研究機関評価部会)  
研究課題に係る評価実施結果**

**1 評価委員**

評価委員名	所属・職名等		摘要
菊地 郁	公立大学法人宮城大学食産業学群	准教授	部会長
白鳥 正文	有限会社川口グリーンセンター	代表取締役	副部会長
麻生 久	国立大学法人東北大学大学院農学研究科	教授	委員
中村 聡	公立大学法人宮城大学食産業学群	教授	委員
西條 由美恵	農業者		委員

**2 評価対象課題**

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
本県に適した特徴ある園芸作物のオリジナル品種育成	本県の園芸品目を有利に販売していくためには、オリジナル品種の育成が必要であり、イチゴ、セリ、スプレーギク、小ギク、リンゴ、ナン、モモなど、本県において重要な園芸品目や特産野菜などについて継続して品種育成を行う。	平成26～30年度	5,124千円	事後評価
宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発	宮城から全国に商材として提案できるような新規園芸品目・品種を県内各地に導入するため、有望な品目・品種の検索と生産技術の開発を行う。	平成26～30年度	6,349千円	事後評価
パイプハウスにおける新たな保温対策技術の開発	燃油価格の高騰に伴う暖房コスト削減や省エネ施設への転換が喫緊の課題であることから、保温効果の高い布団状の多層断熱被覆資材の利用や安価で効果の高い蓄熱資材等の組合せにより、パイプハウスにおける新たな保温対策技術を確立する。	平成27～30年度	2,893千円	事後評価
農業法人の経営発展に向けた実行性あるマーケティング手法の検討	農業分野における戦略的マーケティングに対応した分析手法を整理し、有効性を明らかにするとともに、県内農業法人、直売所等が実践しやすい「農産物マーケティング実践書(仮)」を作成し、販売力強化を支援する。	令和2～4年度	952千円	事前評価
除草効果を安定させるほ場管理技術の開発とICTの活用	問題雑草は、特定のほ場環境や作業精度の不足などの管理条件が重なることで多発するといった知見を、生産者が理解しやすい指標としてまとめ、最新防除技術を選択する際の管理技術のポイントとして示すことで、生産者自らが判断できるほ場管理技術を確立する。将来的には、普及センターと連携し、ICT技術を活用して、モデル的な実証を目指す。	令和2～6年度	6,345千円	事前評価
新たな施肥法による水稻穂揃期葉色の改善	水稻穂揃期の葉色が期待葉色値を維持できるように、出穂期前後の新たな施肥法について、ICT技術を用いた葉色診断等も活用しながら開発する。	令和2～4年度	7,548千円	事前評価
本県系統豚の能力向上技術の確立	「しもふりレッド」の繁殖性に関する遺伝的能力を明らかにするとともに、肉質分析をすすめる、豚肉のおいしさにつながる新たな肉質改良指標を見いだす。	令和2～6年度	3,470千円	事前評価

### 3 評価項目

#### (1) 事後評価

- イ 目標の達成度
- ロ 研究成果
- ハ 地域への貢献度・波及効果
- ニ 総合評価

#### (2) 事前評価

- イ 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度
- ロ 緊急性・優先性
- ハ 独創性・先進性・優位性
- ニ 市場性・成長性
- ホ 実現可能性
- ヘ 人・予算・設備等の推進体制
- ト 総合評価

### 4 評価結果（コメント等は別紙参照）

#### (1) 本県に適した特徴ある園芸作物のオリジナル品種育成

事後評価 「優れた研究であった」

#### (2) 宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発

事後評価 「優れた研究であった」

#### (3) パイプハウスにおける新たな保温対策技術の開発

事後評価 「妥当な研究であった」

#### (4) 農業法人の経営発展に向けた実行性あるマーケティング手法の検討

事前評価 「採択したほうが良い」

#### (5) 除草効果を安定させるほ場管理技術の開発と ICT の活用

事前評価 「採択したほうが良い」

#### (6) 新たな施肥法による水稻穂揃期葉色の改善

事前評価 「採択したほうが良い」

#### (7) 本県産系統豚の能力向上技術の確立

事前評価 「採択したほうが良い」

### 5 研究課題評価表

別紙のとおり。